

ขอบคุณค่ะ

Merci Beaucoup



Salamat

Cám ơn

Thank you, very much! You are too kind!

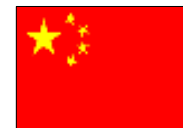
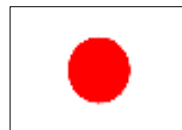
ご支援、ありがとうございました！



外国にルーツがある人々
への支援活動応援助成

当法人は、赤い羽根 ポスト・コロナ社会に向けた福祉活動応援キャンペーン「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成 第5回」を受け、日本語教室からはじまる多文化共生「外国人市民と地域をつなぐ～あいうえお子育てカフェ～の活動を行うことができました。

(助成期間：2024年10月～2025年9月)



NPO法人にほんご豊岡あいうえお

СПАСИБО!!

Danke schön

谢谢！

【開催概要】

1. あいうえお子育てカフェ

外国にルーツを持つ母親を対象に子育てに関することを気軽に話そうとできる居場所を提供し、その中で「学校や地域の配布物を読む」「連絡帳を書く」等を目指し、子育てに積極的に関わられるようにする。

外国にルーツを持つ保護者が、子どもの就学・進学のために必要な日本語を学ぶ。文化や習慣の違いによる誤解を防ぎ、円滑に学校生活が送れるように支援する。

2. 但馬地域における日本語教育支援ネットワーク体制整備

但馬地域の日本語教室の代表が集まるネットワーク会議を開催し、各地域の課題の共有と解決を図る。日本語教育に関する資料を多言語化する等、受入れ体制の充実を図る。

3. 多文化共生のまちづくりのためのセミナー

地域の人に日本語教育や多文化共生の理解を深めてもらい、支援体制の充実を図る。



【活動成果】

1. あいうえお子育てカフェ

外国にルーツを持つ母親や父親が、安心して子育てや学校生活について話し合える居場所を持つことができた。日本語での配布物の読み方や連絡帳の書き方を学ぶことで、保護者が学校や地域との関わりに自信を持つようになり、子どもの教育や生活面への理解が深まった。また、参加者同士が料理を作り、共に食事をする活動を通じて、孤立感が軽減され、地域の中で支え合える関係づくりが進んだ。参加者からは「日本語で話すことに抵抗がなくなった」「地域に知り合いができた」との声が聞かれ、精神的な安心とつながりが生まれた。

2. 但馬地域における日本語教育支援ネットワーク体制整備

但馬地域の日本語教室代表者が一堂に会するネットワーク会議を開催し、各地域の課題を共有するとともに、情報交換を通じて支援体制の強化を図った。日本語教育に関する資料の多言語化に加え、外国人住民の理解を深める方法を検討し、地域全体で受け入れ体制を充実させる意識を高めた。さらに、外国にルーツを持つ子どもの教育環境の充実を目的として、豊岡市議会に「外国人生徒特別枠選抜」に関する請願書を提出し、9月議会で採択された。9月26日には豊岡市議会から兵庫県知事および兵庫県教育長へ意見書が提出された。この取り組みを通じて、行政・教育機関・地域団体が連携し、外国にルーツを持つ子どもの教育支援を推進する基盤づくりが進展した。

3. 多文化共生のまちづくりのためのセミナー

日本語教育や多文化共生への理解を地域住民に広めることができた。講演会では、国際ボランティアの経験や異文化での子育ての話を通じて、参加者が異なる背景を持つ人々の課題を身近に感じる機会となった。演劇的手法を取り入れたワークショップでは、参加者が自分の思いや考えを身体や感覚を使って表現する方法を身につけ、多様な文化的背景を持つ人々の視点を体験的に理解することができた。また、豊岡演劇祭「寄りんせえ！」での成果発表により、多文化共生の取り組みを地域全体に発信し、今後の連携や協働への関心が高まった。

【課題と今後の取組】

1. あいうえお子育てカフェ

【課題】 参加者の日本語能力には差があり、個々に合った学び方の提供が十分でない場合がある。
母親の参加は安定しているが、父親や家族全体の関わりが限定的である。
教育に対する意識に差があり、教育の大切さを地域全体に周知していく必要がある。

【今後の取組み】

日本語学習と子育て支援を組み合わせた個別・少人数対応を検討し、より実践的な学びを提供する。
家族のだれもが参加できるプログラムを企画し、家庭全体で子育てに関われる機会を増やす。
子育てと教育の重要性について、地域や学校との連携を通じて周知活動を強化する。
地域で行われている子育てサロンにも参加し、日本人との交流の機会を増やし社会的なつながりを深める。

2. 但馬地域における日本語教育支援ネットワーク体制整備

【課題】 地域間での情報共有は進んだが、支援対象となる外国人住民への情報伝達がまだ十分ではない。
異文化理解や多文化共生に対する意識を地域全体に浸透させる仕組みづくりが十分ではない。

【今後の取組み】

ネットワーク会議で得られた課題を踏まえ、多言語化資料の配布や学校・地域での説明会を継続して実施する。
地域住民や教育関係者の異文化理解や多文化共生の意識を高める研修・交流の機会を設け、地域全体で受け入れ体制を強化する。

3. 多文化共生のまちづくりのためのセミナー

【課題】 参加者は熱心であったが、参加できる人が限定的で、地域全体への波及が十分ではない。
表現ワークショップの効果を長期的に継続するための支援体制がまだ整っていない。

【今後の取組み】

地域の学校・団体と連携し、より多くの住民が参加できる機会を増やす。
表現力や共感力を育むワークショップを定期的に行い、学びを日常生活や地域活動につなげる仕組みを作る。
参加者が自分の思いを身体や感覚を使って表現する方法を身につけられるよう、表現活動の継続的支援を行う。



ありがとうございました💖💖💖